

令和7年度 幼保小の連携・接続に関する実態調査について 〔調査結果〕

令和7年11月

山梨県教育庁義務教育課

1. 実態調査の趣旨

文部科学省は令和4年3月31日付けで「幼保小の架け橋プログラムの実施にむけての手引き(初版)」を示した。山梨県教育委員会では、これに基づき、「山梨県教育振興基本計画(令和6年度～令和10年度)」において、「幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けた取り組みの推進」、「スタートカリキュラムの充実を図り、児童が幼児期の学びや育ちを踏まえ、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができる取り組みの推進」等を明記した。その成果指標として幼保小の円滑な接続を図るため、「幼保小の架け橋プログラム」に基づくスタートカリキュラムの編成、実施、評価、改善等について目標値が設定されている。

取組内容や方法を検討するうえで、県内の幼児教育施設、小学校及び各市町村教育委員会等の現状を把握するため幼保小の連携・接続についての実態調査を行う。

調査後、その結果を活かし、幼保小連携事業の現状と課題について考察するとともに、課題解決に向けた新たな取組につなげる。

2. 調査対象

(1) 幼児教育施設(267)

○幼稚園・保育所・認定こども園

(2) 小学校(182)

○国公立小学校・国公立特別支援学校小学部

(3) 市町村教育委員会(27)

(4) 市町村子育て支援関係課(27)

3. 実施期間

令和7年7月5日～7月31日

4. 調査票配布・回収方法

Webアンケート調査

5. 調査票の回答状況

幼児教育施設(267)

	配布数	回答数	回答率
幼稚園	21	19	90%
保育所(分園2園を含む)	132	87	66%
認定こども園	114	87	76%
合計	267	193	72%

国公立小学校・国公立特別支援学校(182)

公立小学校	166	166	100%
国立小学校	1	1	100%
私立小学校	4	1	25%
県立特別支援学校	10	10	100%
国立特別支援学校	1	1	100%
合計	182	179	98%

市町村教育委員会(27)

市町村教育委員会	27	26	96%
----------	----	----	-----

市町村子育て支援関係課(27)

子育て支援関係課	27	27	100%
----------	----	----	------

＜設問一覧：幼児教育施設＞

設問1 市町村名を記入してください。

設問2 園・所名をお答えください。

設問3 【全員回答】
5歳児カリキュラムを作成していますか。

- | |
|----------|
| ①作成している |
| ②作成していない |

設問4 【設問3で②を選択した方のみ回答】
「作成していない」理由を書いてください。

設問5 【設問3で②を選択した方のみ回答】
カリキュラムは作成作業が完了するのは、いつ頃の予定ですか。

- | |
|---------|
| ①令和7年度中 |
| ②令和8年度中 |
| ③未定 |

設問6 【設問3で①を選択した方のみ回答】
5歳児カリキュラムは「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっていますか。

- | |
|---|
| ①「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっている→設問7・8・9へ |
| ②「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容に沿うよう現在作成中→設問8・9へ |
| ③現在は「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっていないが、今後作成予定→設問11へ |
| ④「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっておらず、今後も作成予定はない→設問11へ |

設問7 【設問6で①を選択した方のみ回答】
幼保小の連携・協働に基づいて作成した5歳児カリキュラムについて実施、評価、改善を行っていますか。

- | |
|------------------------|
| ①いずれも行っていない(作成のみ) |
| ②カリキュラムを実施した |
| ③カリキュラムの実施、評価を行っている |
| ④カリキュラムの実施、評価、改善を行っている |

設問8 【設問6で①または②を選択した方のみ回答】
幼保小の連携・協働に基づいて作成した5歳児カリキュラムの作成においては、どのような組織で協議を行いましたか。

- | |
|----------------|
| ①小学校区を基本にした組織 |
| ②中学校区を基本にした組織 |
| ③市町村単位を基本にした組織 |
| ④その他 |

設問9 【設問6で①または②を選択した方のみ回答】
設問7の組織に関わった(関わっている)人は誰ですか。(複数回答可)

- | |
|---------|
| ①小学校管理職 |
| ②小学校教諭 |
| ③園・所管理職 |
| ④園・所保育者 |
| ⑤行政担当 |
| ⑥その他 |

設問10 【設問9で⑤と回答した方のみ回答】
担当課を記入してください。

設問11 【設問6で③または④を選択した方のみ回答】
「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっていない理由をお答えください。(複数回答可)

- | |
|---------------|
| ①多忙で作成時間がとれない |
| ②作成方法がわからない |
| ③作成する必要性を感じない |
| ④その他 |

設問12 【全員回答】
幼保小の連携・接続を進めるにあたり、窓口となる担当者はいますか。

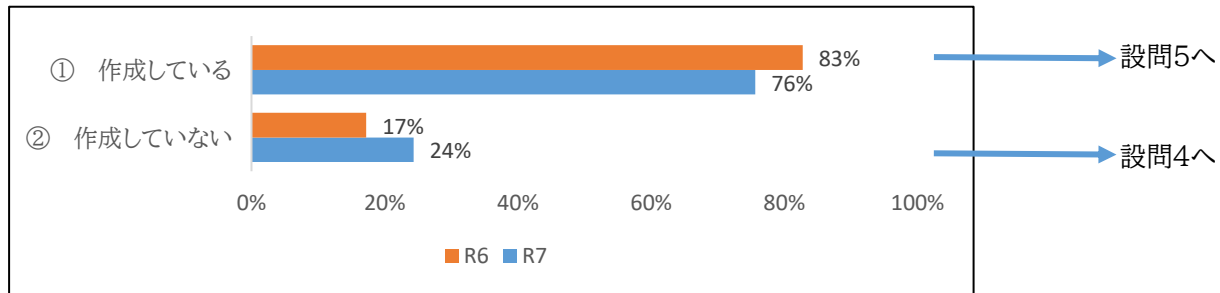
- | |
|-------|
| ① いる |
| ② いない |

設問13 【設問12で①を選択した方のみ回答】
担当者の職名を記入してください。

設問14 【自由回答】
「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、課題となるのはどのようなことですか。

＜調査集計結果：幼児教育施設＞

設問3 【全員回答】
5歳児カリキュラムを作成していますか。



設問4 【設問3で②を選択した方のみ回答(R6-30園、R7-48園)】
「作成していない」理由を書ってください。

1 既存の計画で対応

これまで使用してきた5歳児の計画を見直して使用している。
年間・月間計画等に取り入れている。
現行のカリキュラムが小学校接続を視野に編成されている。
保育計画に組み込まれており、特別に作成していない。

2 人的・時間的リソース不足

日々の保育で手一杯。
教員の負担を減らすため、シンプルな対応を検討している。

3 小学校との連携不足

小学校側が忙しく、連携を断られている。

4 制度・地域の課題

市でまだ取り組みが始まっていない。
地域行政との連携を望んでいる。

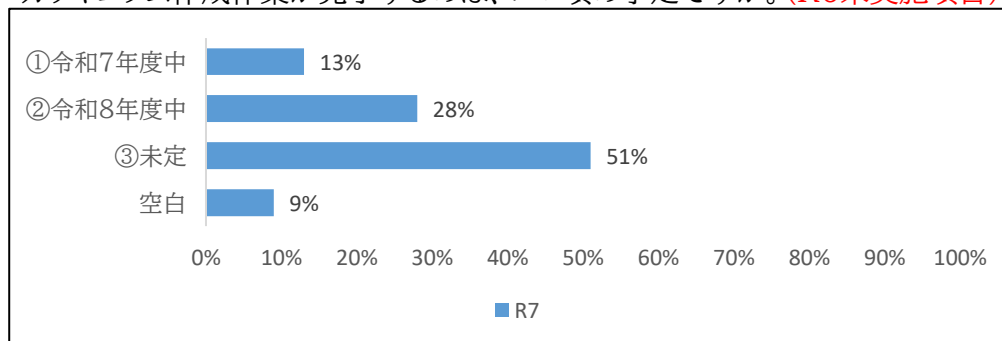
5 施設の特徴

未満児保育園のため対象年齢児がいない。
現在5歳児が不在。

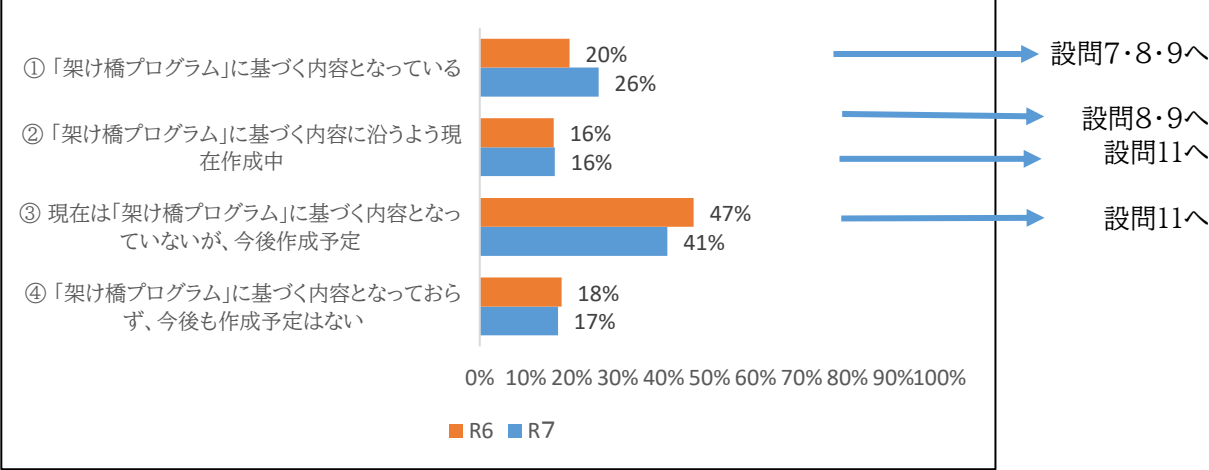
6 その他の理由

一方的な内容になる懸念があるため作成していない。

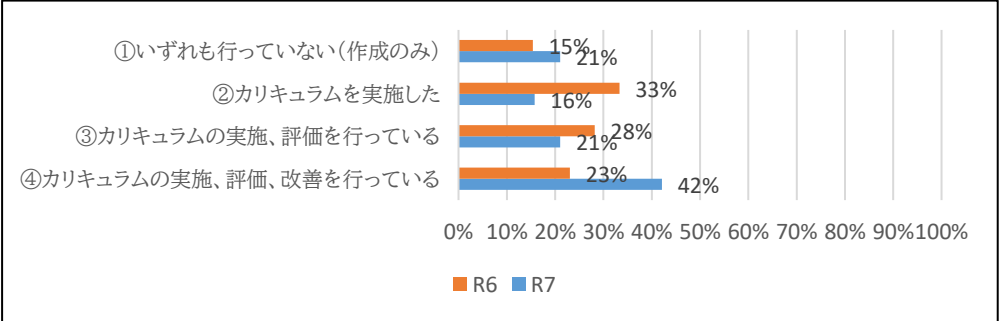
設問5 【設問3で②を選択した方のみ回答】
カリキュラム作成作業が完了するのは、いつ頃の予定ですか。(R6未実施項目)



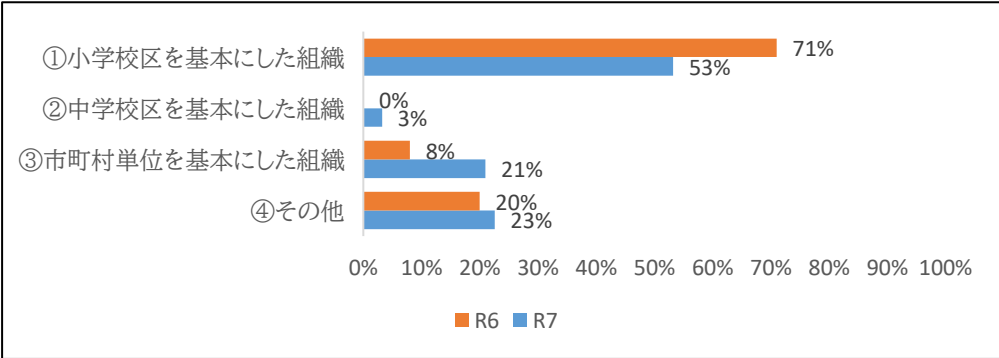
設問6 【設問3で①を選択した方のみ回答】
5歳児カリキュラムは「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっていますか。



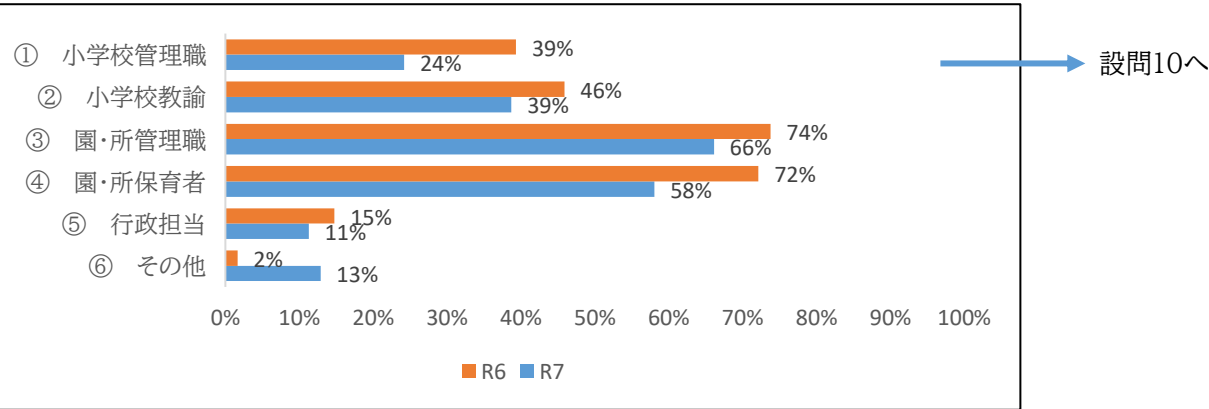
設問7 【問6で①を選択した方のみ回答(R6-34園、R7-38園)】
幼保小の連携・協働に基づいて作成した5歳児カリキュラムについて実施、評価、改善を行っています



設問8 【問6で①または②を選択した方のみ回答(R6-62園、R7-62園)】
幼保小の連携・協働に基づいて作成した5歳児カリキュラムの作成においては、どのような組織で協議を行いましたか。



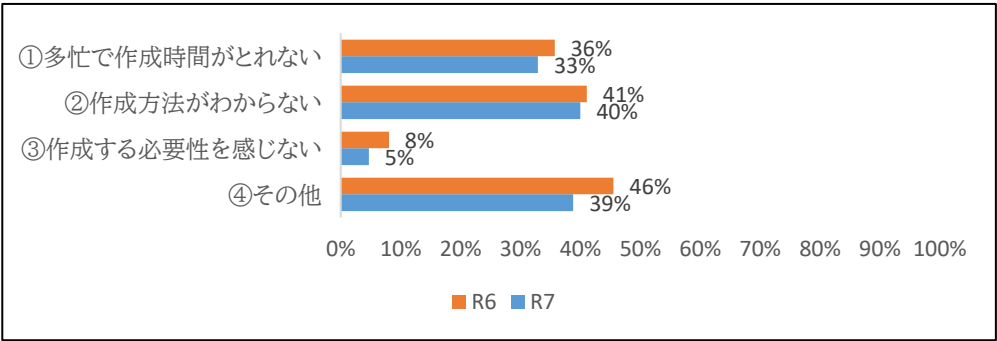
設問9 【問6で①または②を選択した方のみ回答(R6-62園、R7-62園)】
問7の組織に関わった(関わっている)人は誰ですか。(複数回答可)



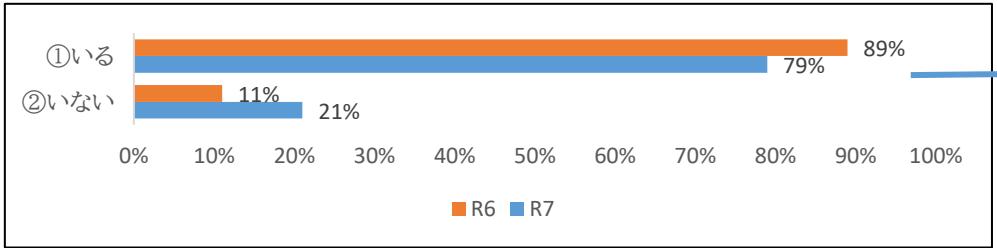
設問10 【問9で⑤と回答した方のみ回答(R6-7園、R7-8園)】
担当課を記入してください。

	R6	R7
教育委員会	3件	5件
保育課	2件	3件
教育総務課と子育て支援課	1件	0件
やまなし幼児教育センター	1件	0件

設問11 【問6で③または④を選択した方のみ回答(R6-112園、R7-85園)】
架け橋プログラムに基づく内容となっていない理由をお答えください。(複数回答可)

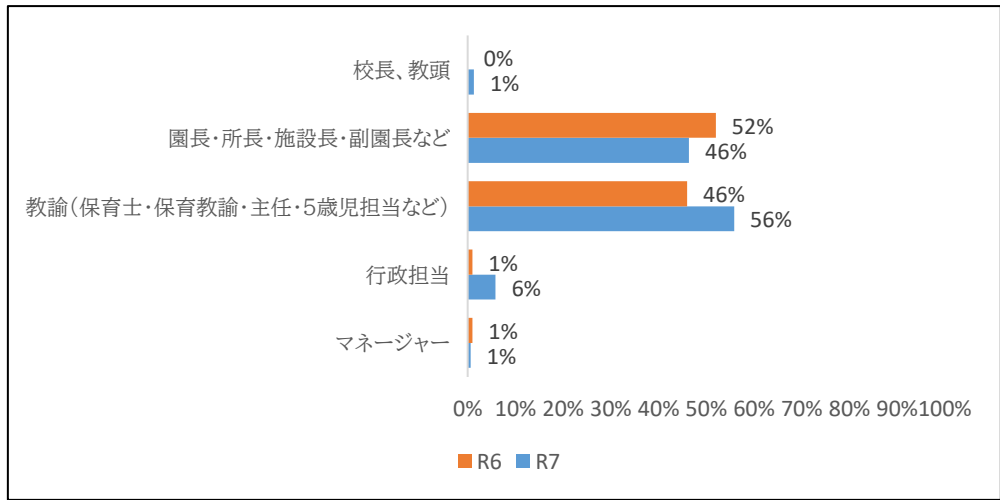


設問12 【全員回答】
幼保小の連携・接続を進めるにあたり、窓口となる担当者はいますか。



→ 設問13へ

設問13 【設問12で①を選択した方のみ回答】
担当者の職名を記入してください。



設問14 【自由回答】

架け橋プログラムを進めるにあたり、課題となるのはどのようなことですか。(自由にお書きください。)

1 構造的な困難

園児の進学先が多数の小学校に分散している。
小学校側の人員・時間的余裕がない。
教員の異動による引き継ぎの不安定さ。
保育と教育の制度的・文化的な違い(時間割、保育観など)。

2 連携の障壁

園と小学校の温度差・優先度の違い。
情報共有の仕組みが不十分(就学前後の情報の断絶)。
行政のリーダーシップ不足。
書類作成が目的化し、実質的な連携になっていない。

3 実践上の困難

交流や協議の時間が確保できない。
園ごとの保育方針の違いが大きく、統一的なプログラム作成が困難。
子ども一人ひとりへの理解と対応が十分に共有されていない。

☆〔幼児教育施設〕調査集計結果から

◆「幼保小の架け橋プログラム」への理解が進展していることが確認できる。

・設問5では、カリキュラム作成作業完成時期について「未定」が半数を占めている。これは、当該作業が簡易なものではなく、長期的な見通しのもとで取り組む必要があることを理解しているためと考えられる。

・設問8では、カリキュラム作成に関わる組織について「市町村単位」が増加している。行政が関与し、取組を進める市町村が増えていることがうかがえる。

◆「5歳児カリキュラム」の実施・評価・改善を行う幼児教育施設が増加している。

・設問7では、5歳児カリキュラムの実施・評価・改善を行っている幼児教育施設が前年度比で約2倍となった。着実な意識の変化が見られる。

<設問一覧:小学校>

設問1 市町村名を記入してください。

設問2 学校名

設問3 【全員回答】
スタートカリキュラムは「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっていますか。

①プログラムに沿っている →設問4・6・8へ
②プログラムに沿うよう現在作成中 →設問5・6・8へ
③今後作成予定 →設問11へ
④今後も作成予定はない →設問11へ

設問4 【設問3で①を選択した方のみ回答】
幼保小の連携・接続に基づいたスタートカリキュラムについて実施、評価、改善を行っていますか。

①いずれも行っていない(作成のみ)
②実施した
③実施、評価を行った
④実施、評価、改善を行った

設問5 【設問3で②を選択した方のみ回答】
カリキュラム作成作業が完了するのは、いつ頃の予定ですか。

①令和7年度中
②令和8年度中
③未定

設問6 【設問3で①または②を選択した方のみ回答】
幼保小の連携・接続に基づいたスタートカリキュラムの作成において、どのような組織で協議を行いましたか。(協議していますか。)

①小学校区を基本にした組織
②中学校区を基本にした組織
③市町村単位を基本にした組織
④その他 →設問7へ

設問7 【設問6で④を選択した方のみ回答】
具体的に記述してください。

設問8 【設問3で①または②を選択した方のみ回答】
設問6の組織に関わった(関わっている)人は誰ですか。(複数回答可)

①小学校管理職
②小学校教諭
③園・所管理職
④園・所保育者
⑤行政担当 →設問9へ
⑥その他

設問9 【設問8で⑤を選択した方のみ回答】
担当課を記述してください。

設問10 【設問3で③または④を選択した方のみ回答】
「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっていない理由をお答えください。(複数回答可)

①多忙で作成時間がとれない
②作成方法がわからない
③作成する必要性を感じない
④その他 →設問11へ

設問11 【設問10で④を選択した方のみ回答】
具体的に記述してください。

設問12 【全員回答】
幼保小の連携・接続を進めるにあたり、学校の窓口となる担当者はいますか。

① いる
② いない

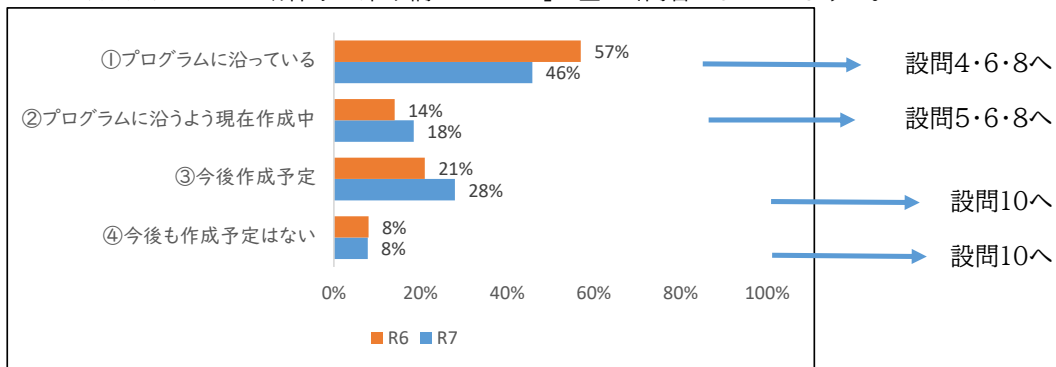
設問13 【設問12で①を選択した方のみ回答】
担当者の職名を記入してください。

設問14 【自由回答】
「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、課題となるのはどのようなことですか。

＜調査集計結果：小学校＞

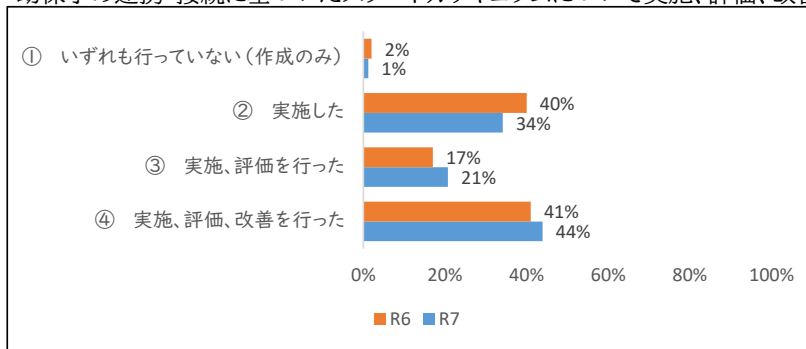
設問3 【全員回答】(R6-181校、R7-179校)

スタートカリキュラムは「幼保小の架け橋プログラム」に基づく内容となっていますか。



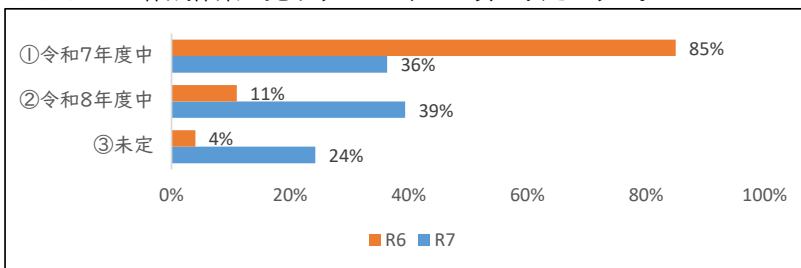
設問4 【設問3で①を選択した方のみ回答(R6-104校、R7-82校)】

幼保小の連携・接続に基づいたスタートカリキュラムについて実施、評価、改善を行っていますか。



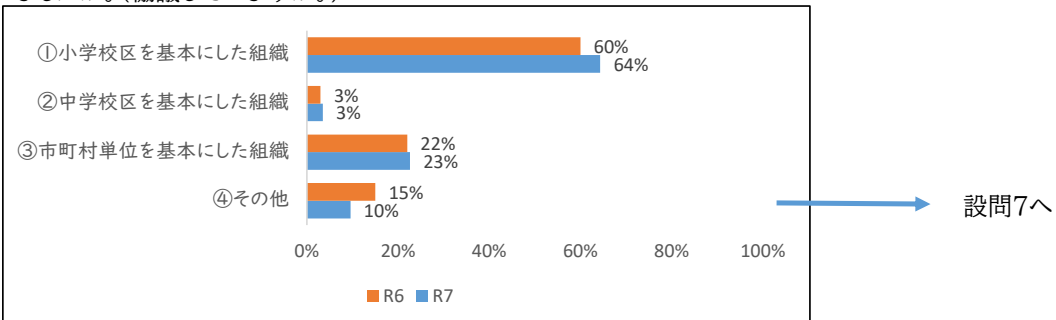
設問5 【設問3で②を選択した方のみ回答】(R6-26校、R7-33校)

カリキュラム作成作業が完了するのは、いつ頃の予定ですか。



設問6 【設問3で①または②を選択した方のみ回答(R6-130校、R7-115校)】

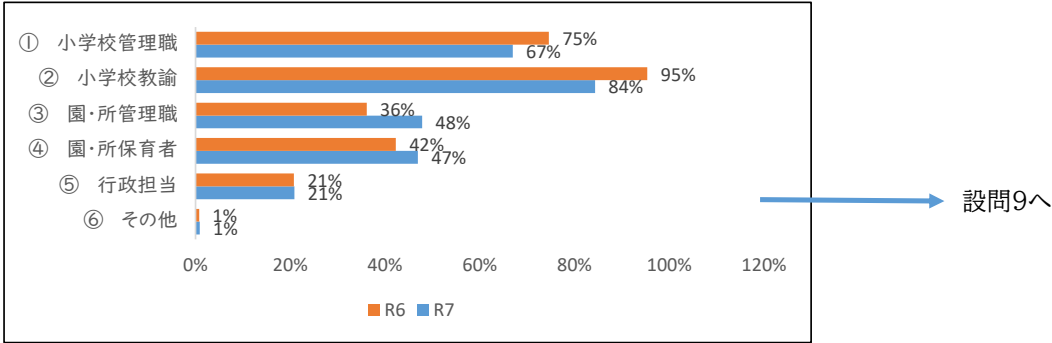
幼保小の連携・接続に基づいたスタートカリキュラムの作成において、どのような組織で協議を行いましたか。(協議していますか。)



設問7 【設問6で④を選択した方のみ回答】
具体的に記述してください。

R6	R7
自校で作成(8)	(2)
学区以外の幼稚園等と連携している。(1)	—
小学校区の保幼と連携する中で検討しているが、組織には至っていない。(1)	—
児童の卒園した幼保こども園の先生方に授業を参観していただき、幼保小連携の課題について話し合いを行った。(1)	—

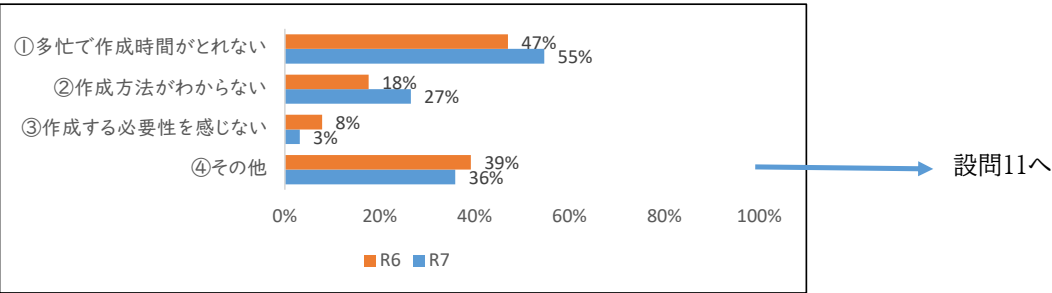
設問8 【設問3で①または②を選択した方のみ回答】
設問6の組織に関わった(関わっている)人は誰ですか。(複数回答可)



設問9 【設問8で⑤を選択した方のみ回答】
担当課を記述してください。

	R6	R7
子育て支援課(政策課)	2件	1件
市町村教育委員会(関連)	25件	24件
教育委員会・福祉課	2件	0件

設問10 【設問3で③または④を選択した方のみ回答(51校)】
「架け橋プログラム」に基づく内容となっていない理由をお答えください。(複数回答可)



設問11 【設問10で④を選択した方のみ回答(R6-20校、R7-23校)】
具体的に記述ください。

1 情報不足・理解不足

架け橋プログラムの詳細を知らなかった。
幼保との連携方法について情報収集中。

2 作成の困難さ・環境的制約

小学校区に幼稚園・保育所がない、または複数の園から入学してくるため連携が難しい。
作成の場の設定が困難。
保護者や地域代表者の選定が難しい。

3 連携体制・組織の未整備

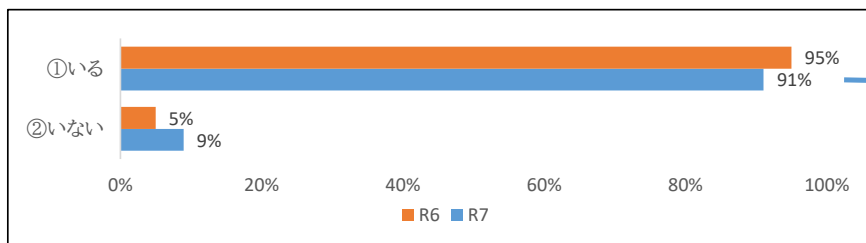
組織作りが未整備で、協議会等が整っていない。
市町村教育委員会のリーダーシップが必要。
地域や保護者も含めた取組について検討中。
コーディネートする機関が必要と感じている。
先進校や教育委員会のご指導を経て、作成する予定。
架け橋プログラムを主導できる人材がいらない。

4 特殊な学校事情

特別支援学校や障害児学校で、個別対応が中心。
サポートノートや聞き取りを活用している。

設問12【全員回答】

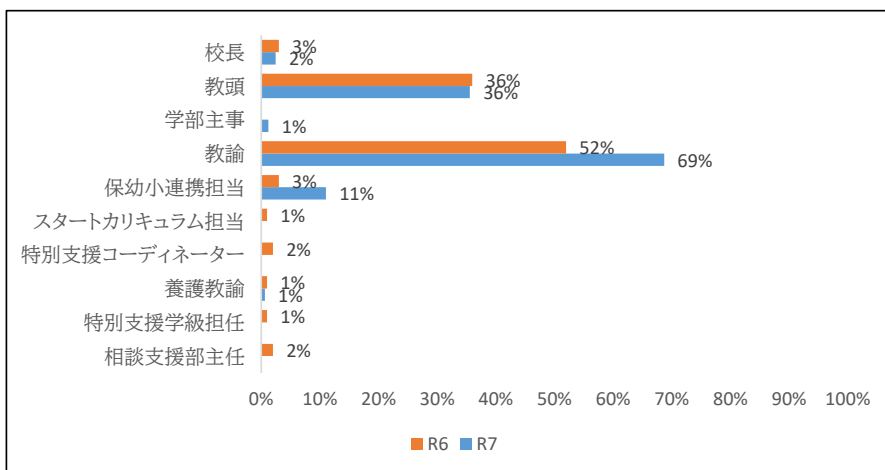
幼保小の連携・接続を進めるにあたり、学校の窓口となる担当者はいますか。



設問13へ

設問13【設問12で①を選択した方のみ回答】

担当者の職名を記入してください。(複数回答可)



設問14【自由回答】

「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、課題となるのはどのようなことですか。

1 時間・人員の確保

多忙による調整困難(見学・会議・情報交換など)。
担当者の異動による継続性の欠如。
コーディネーター的役割の必要性。
教職員の働き方改革との両立。

2 連携の難しさ(園の多様性・距離・方針)

出身園の多様性(複数・広域・私立公立混在)。
園ごとの教育方針・保育内容の違い。
学区外・園が存在しない地域の特殊事情。
幼保小の教育観・規範意識のずれ。

3 共通理解・研修の必要性

架け橋プログラムの理解不足。
教職員全体への周知・研修の機会不足。
教育観の転換とスタートカリキュラムの定着。
管理職の在任期間の短さによる浸透不足。

4 組織的な体制づくり

地教委や行政主導の必要性。
園・学校間の連絡会や合同会議の開催困難。
組織的な継続性のある仕組みづくり。
評価方法や実効性の担保。

5 子どもの多様性への対応

入学児童の生活習慣・発達段階の違い。
特別な教育的配慮が必要な児童への対応。
スタートカリキュラムの柔軟な設計。

☆〔小学校〕調査集計結果から

◆「幼保小の架け橋プログラム」への理解が進展していることが確認できる。

- ・設問3では、プログラムに沿っていると回答した学校は減少し、現在作成中または今後作成予定の学校が増加している。このことから、「幼保小の架け橋プログラム」への正しい理解が進んでいると考えられる。
- ・設問5では、作成作業の完了時期は令和8年度中が最も多く、長期的な見通しのもとで取り組む必要があることを理解していると推察される。

◆「スタートカリキュラム」の実施・評価・改善を行う小学校が増加している。

- ・設問4で「幼保小の架け橋プログラム」に基づいて「スタートカリキュラム」を改善しようとする、関係者の意識変容が見られる。

<設問一覧：市町村教育委員会>

設問1 市町村名を記入してください。

設問2 「幼保小の架け橋プログラム」を知っていますか。

①知っている

②知らない

設問3 幼保小の連携・接続に基づいた小学校でのスタートカリキュラム及び教育・保育施設の5歳児カリキュラムの作成・実施状況等について把握していますか。

①スタートカリキュラムのみ把握している

②5歳児カリキュラムのみ把握している

③どちらも把握している

④どちらも把握していない

設問4 「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、窓口となる担当者はいいますか。

①いる

②いない

設問5 【設問4で①を選択した方のみ回答】
担当者の担当課・担当名等を教えてください。

設問6 教育委員会や子育て支援関係課等の行政担当者と幼保小の関係者が参集する会議を開催していますか。

①開催している

②開催していない

③今後開催の予定がある

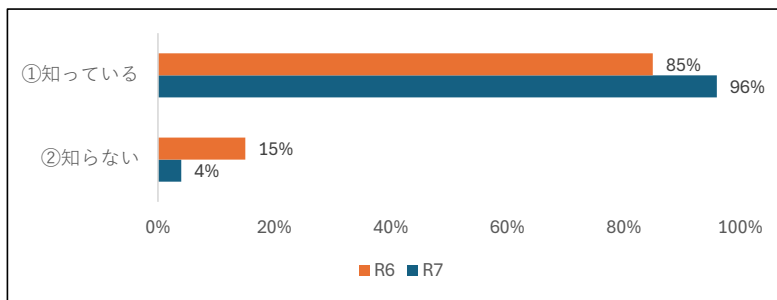
④開催の予定はない

設問7 【設問6で①と選択した方のみ回答】
年間の開催回数を教えてください。

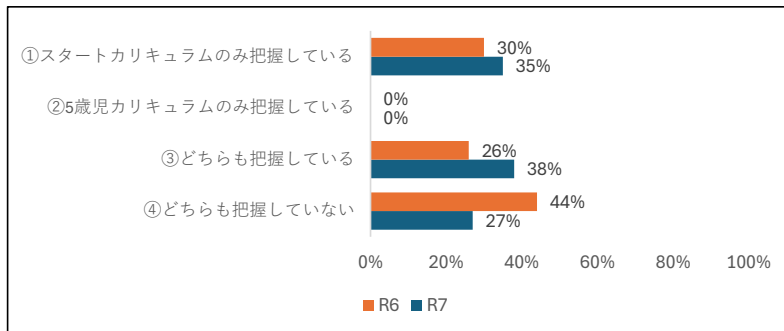
設問8 【自由回答】
「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、課題となるのはどのようなことですか。

<調査集計結果：市町村教育委員会>

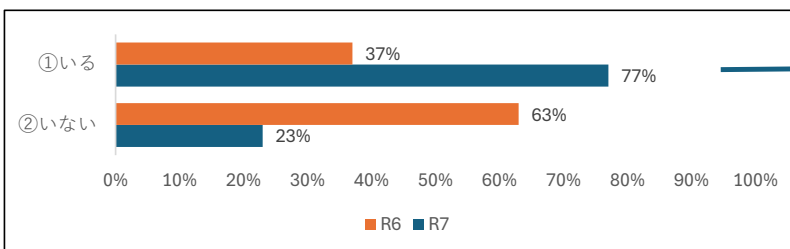
設問2 「幼保小の架け橋プログラム」を知っていますか。



設問3 幼保小の連携・接続に基づいた小学校でのスタートカリキュラム及び教育・保育施設の5歳児カリキュラムの作成・実施状況等について把握していますか。



設問4 「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、窓口となる担当者はいますか。

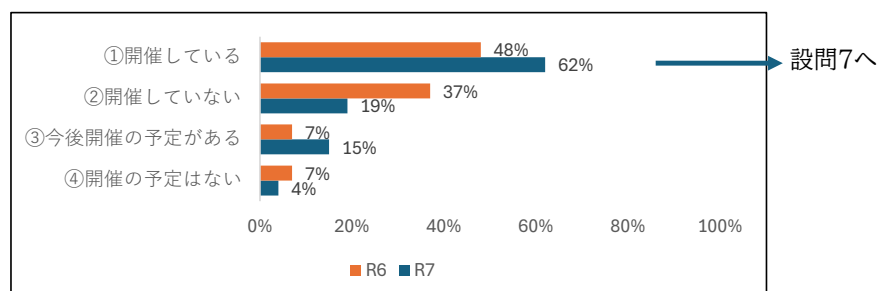


→ 設問5へ

設問5 【設問4で①を選択した方のみ(20教委)回答】
担当者の担当課・担当名等を教えてください。

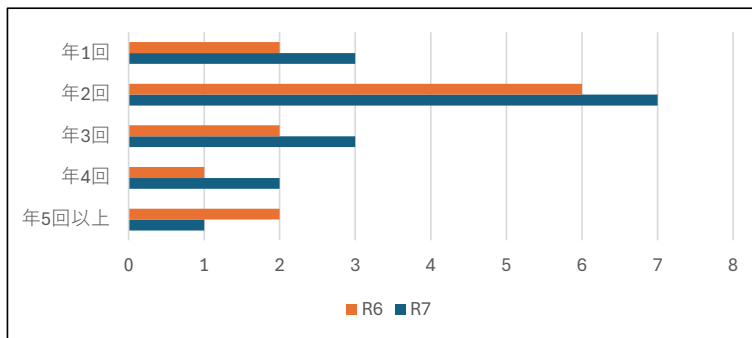
指導主事	8 教委
指導監	2 教委
主幹	2 教委
学校教育推進監	1 教委
教育研修所所長	1 教委
課長	1 教委
学校教育担当	4 教委

設問6 教育委員会や子育て支援関係課等の行政担当者と幼保小の関係者が参集する会議を開催していますか。



→ 設問7へ

設問7 【設問6で①と選択した方のみ回答】(R6-13教委、R7-16教委)
年間の開催回数を教えてください。



設問8 【自由回答】
「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、課題となるのはどのようなことですか。

1 連携体制・人材の課題

担当者が毎年異動するため、継続的な取り組みが困難。
管理職の理解や姿勢が現場の取り組みに大きく影響。
教員・保育士間の業務目的のギャップ。
小学校全体での理解が不十分。
保育園・幼稚園・認定こども園ごとの理解度や認識の差。

2 情報共有・周知不足

架け橋プログラムの内容が十分に周知されていない。
どのように作成すればよいか分からない学校が多い。
文書での引き継ぎはあるが、活用されにくい。

3 時間・リソースの制約

多忙の中で連携に時間と手間がかかる。
研修や会議の機会が十分に確保できない。
話し合いや協働の場の設定が困難。
弾力的な時間割編成が難しい。

4 カリキュラムの整備・実効性

架け橋期カリキュラムの具体化と実効性の確保。
スタートカリキュラム vs 5歳児プログラムの視点の違い。
各園・学校での指導実態の違いに対応した策定が困難。

5 地域・行政の役割

行政が主体となるべきだが、具体的な進め方が不明。
自治体ごとの実行可能な計画の策定が必要。

6 保護者・地域との連携

保護者や地域の協力が不可欠だが、巻き込み方が難しい。
家庭内での協力が得られないケースもある。

7 コロナ禍の影響とその後の対応

園児の小学校訪問が途絶えたまま。
教職員の働き方改革の影響で復活が難しい。

☆〔市町村教育委員会〕調査集計結果から

◆「幼保小の架け橋プログラム」への理解が進展していることが確認できる。

・設問2では、幼保小の架け橋プログラムを「知っている」と回答した割合が96%に達している。
・5歳児カリキュラムおよびスタートカリキュラムについても、「どちらも把握していない」は減少し、「どちらも把握している」が増加している。

◆行政が関与が効果的な取組であることを理解し、促進活動に着手した市町村が増加している。

・設問4の窓口担当者の設置は、昨年度の約2倍となっている。
・設問6の関係者が参集する会議の開催も増加している。

<設問一覧:市町村子育て支援関係課>

設問1 回答者の所属名(市町村名・課名)を記入してください。

設問2 「幼保小の架け橋プログラム」を知っていますか。

①知っている

②知らない

設問3 幼保小の連携・接続に基づいた小学校でのスタートカリキュラム及び教育・保育施設の5歳児カリキュラムの作成・実施状況等について把握していますか。

①スタートカリキュラムのみ把握している

②5歳児カリキュラムのみ把握している

③どちらも把握している

④どちらも把握していない

設問4 「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、窓口となる担当者はいいますか。

①いる

②いない

設問5 【設問4で「いる」を選択した方のみ回答】
担当者の担当課・担当名等を教えてください。

設問6 教育委員会や子育て担当課等の行政担当者と幼保小の関係者が参集する会議を開催していますか。

①開催している

②開催していない

③今後開催の予定がある

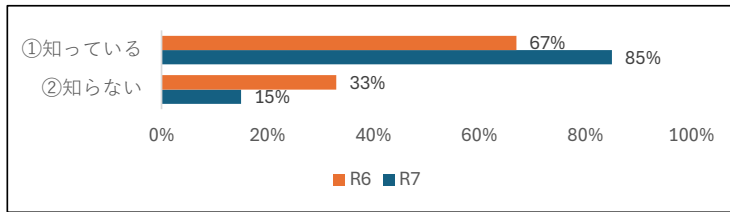
④開催の予定はない

設問7 【設問6で①と選択した方のみ回答】
年間の開催回数を教えてください。

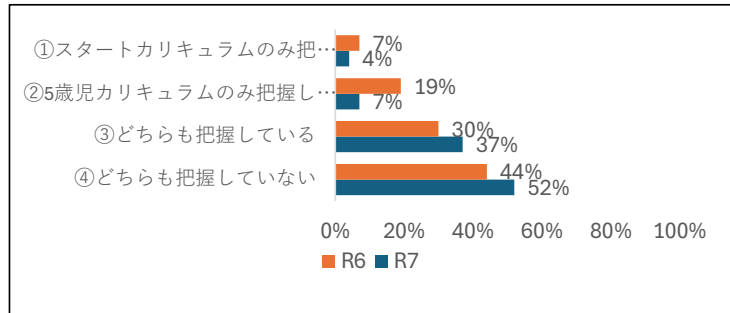
設問8 【自由回答】
「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、課題となるのはどのようなことですか。

＜調査集計結果:市町村子育て支援関係課＞

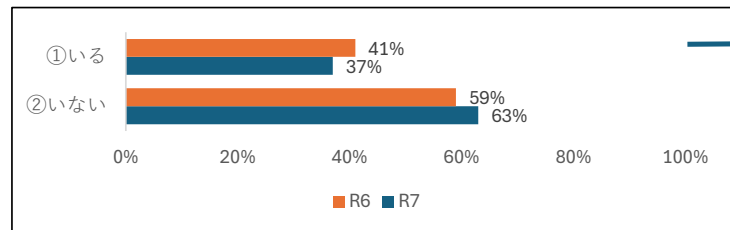
設問2 「幼保小の架け橋プログラム」を知っていますか。



設問3 幼保小の連携・接続に基づいた小学校でのスタートカリキュラム及び教育・保育施設の5歳児カリキュラムの作成・実施状況等について把握していますか。



設問4 「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、窓口となる担当者はいますか。

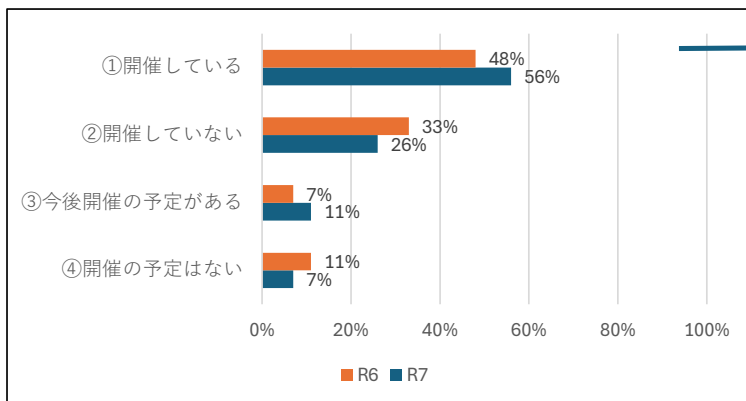


→ 設問5へ

設問5 【設問4で「いる」を選択した方(10市町村)のみ回答】
担当者の担当課・担当名等を教えてください。

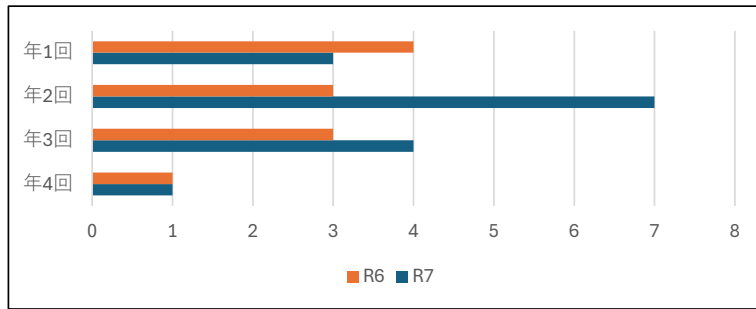
子育て支援・保育係	1	(市町村)
こども子育て課保育担当 主幹	1	
住民健康課	1	
教育委員会	4	
小学校校長・保育所長	2	
教育総務課 こども保育課 市立保育園担当保育士	1	

設問6 教育委員会や子育て担当課等の行政担当者と幼保小の関係者が参集する会議を開催していますか。



→ 設問7へ

設問7 【設問6で①と選択した方のみ回答】(R6－13市町村、R7－15市町村)
年間の開催回数を教えてください。



設問8 【自由回答】
「幼保小の架け橋プログラム」を進めるにあたり、課題となるのはどのようなことですか。

1 保護者対応・特別支援

特別な支援が必要な子どもに対して、保護者の理解や同意が得られないケースが多く、支援の実施が困難。
特性のある児童への対応において、保護者との連携が課題。

2 就学先との連携の困難さ

就学予定の学校数が多く、場所も異なるため、訪問や聞き取りなどの連携が難しい。
全ての学校と連携を図るには、時間的・地理的制約が大きい。

3 教育課程・制度の違いと人的・時間的制約

幼児教育と小学校教育の教育課程の違いにより、教職員間の理解不足が生じている。
人的・時間的なリソース不足、情報共有の困難さが円滑な接続を妨げている。

4 継続性・人事異動の影響

担当保育士や教諭の異動により、プログラムの継続が困難。
引継ぎが不十分で、年度をまたいだ取り組みの継続性が確保されていない。

5 会議・交流の形式的運用

毎年連携会議は開催されているが、情報交換や勉強会にとどまり、実践的なプログラムの着手に至っていない。
保育所と小学校の交流がほとんどなく、実質的な連携が進んでいない。

☆〔市町村子育て支援関係課〕調査集計結果から

◆「幼保小の架け橋プログラム」への理解が進展していることが確認できる。

・設問2では、幼保小の架け橋プログラムを「知っている」と回答した割合が85%に達している。
・5歳児カリキュラムおよびスタートカリキュラムについても、「どちらも把握している」は増加している。一方で「どちらも把握していない」も増加しているのは、正しい理解が進んだためではないかと推察される。

◆行政が関与が効果的な取組であることを理解し、促進活動に着手した市町村が増加している。

・設問6の関係者が参集する会議の開催は増加している。
・設問4の窓口担当者の設置については、昨年度と比較して増加が見られない。これは、他の業務と兼務して対応している状況があるためと推察される。

令和7年度 幼保小連携・接続に関する実態調査結果 【課題】

【幼児教育施設の課題】

- 構造的困難：園児の進学先が多数に分散、小学校側の余裕不足。
- 連携の障壁：園と小学校の温度差。
- 実践上の困難：交流・協議の時間不足、保育方針の違い、園の横のつながりの不足。

【小学校の課題】

- 時間・人員の確保：参観・会議・情報交換等の調整困難、働き方改革との両立。
- 園の多様性への対応：出身園の多様性、保育方針の違いへの対応。
- 共通理解・研修不足：「架け橋プログラム」の理解不足、研修参加機会の不足。
- 組織的体制の未整備：管理職の理解・取組の推進が不十分。継続的な組織体制整備の不足。
- 子どもの多様性への対応：発達段階や生活習慣の違いに応じた対応。

【教育委員会の課題】

- 連携体制・人材の課題：担当者の異動、管理職の理解不足。
- 情報共有・周知不足：「架け橋プログラム」の周知不足、カリキュラム等の作成方法の理解不足。
- 時間・リソースの制約：研修・会議の機会不足、弾力的時間割編成への理解不足。
- 地域・行政の役割不明確：自治体ごとの計画策定が不十分。
- コロナ禍の影響：園児の訪問途絶、教職員の働き方改革による復活困難。

【子育て支援担当課の課題】

- 保護者対応・特別支援：保護者の理解・同意が得られず、支援実施が困難。
- 就学先との連携困難：学校数・場所の多様性による連携の難しさ。
- 教育課程・制度の違い：教職員間の理解不足、情報共有が困難。
- 継続性の確保困難：人事異動による引継ぎ不足。
- 会議・交流の形式化：実践的なプログラムへの着手が進まない。

【共通課題】

- 人員・時間的制約：多忙による連携活動の困難、会議・交流の時間確保が難しい。
- 人事異動による継続性の欠如：担当者の異動により、取り組みの継続が困難。
- 制度・文化の違い：保育と教育の制度的・文化的な違い（時間割、教育観など）。
- 情報共有の不十分さ：就学前後の情報共有が不十分。引き継ぎ情報の実践への結びつきの弱さ。
- 行政のリーダーシップ不足：地教委や自治体の主導的役割が不明確。